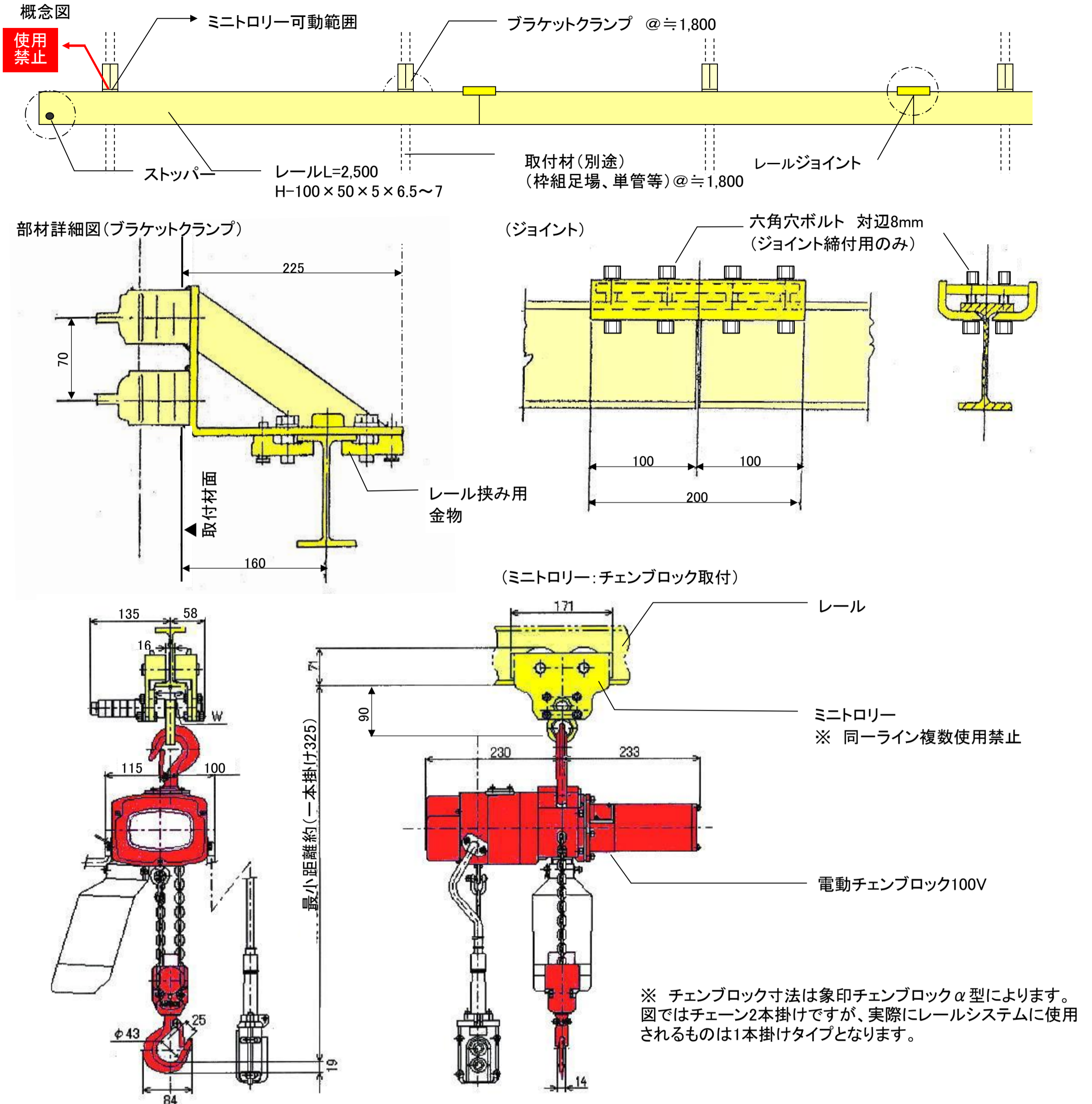


● レールシステム 概念図 部材詳細図 注意事項



- ・定格荷重はミニトrolley及び揚重器具(計約35kg)を除き、ブラケットクランプ取付ピッチ@1,800において約230kgです。揚重器具が重い、または取付ピッチが大きくなる場合、定格荷重値は小さくなります。取付ピッチが小さくなる場合でも約230kgとして下さい。揚重機やミニトrolleyの表示荷重値が上記レールシステムの定格荷重値を上回ってもレールシステムの定格荷重値に従い作業願います。
- ・着脱により各部が在庫時点と異なり消耗している場合があります。その場合入替が必要となります。
- ・本システム弊社品(レール、ジョイント、クランプ、ストッパー、トrolley)以外の部材及びパーツと合わせて御使用の際は、個々の部材については貴社の責任の下でご使用ください。
- ・あらゆる部材(部品のみも含み)の落下等の衝撃後再使用は禁止です(在庫時と異なり破損が生じる場合有)。部材(部品)を再送致します。
- ・レールの片持張出部(最端のブラケットクランプによる支持部~レール端)ミニトrolley使用及び吊荷は禁止です。片持張出部に吊荷トrolleyを配するとその部分の許容荷重を超え、場合により吊荷等の落下の恐れがあります。
- ・ストッパーは最終安全装置のため、この部分での当りによる停止を前提とした取扱はしないで下さい。また、吊荷状態のミニトrolleyを強く当たると同部分の破損や吊荷の落下の恐れがあります。本品の脱着は禁止です。
- ・取付材(足場等)の許容荷重とあわせて計画願います。取付材の許容荷重が下回る場合、その数値に従ってください。
- ・ジョイントのボルトの締込はラチェットレンチ(インパクトレンチ等動力付き不可)で行って下さい。ボルトが切れる場合があります。
- ・ブラケットクランプとレールジョイントが干渉する場合は適切な取付部材(架構)を確保し、ブラケットクランプ取付ピッチが1,829mm以下となるように計画して下さい。・ブラケット斜材のアイボルトは使用しないで下さい。
- ・ミニトrolleyは以下について注意下さい。部材の脱落、落下の恐れがあります。
 - ・無負荷でもトrolleyの発停止走行はゆっくり行って下さい。トrolleyを資材重心直上に配し揚重して下さい。急な巻上を行わないで下さい。
 - ・トrolleyをストッパーに当てないで下さい。また止まるような設置方法使用計画は避けて下さい。(ストッパーは万ーの場合の部材です。)
 - ・トrolleyはレール設置以外時でも取扱に注意下さい。(投げる等衝撃禁止、特に車輪に対し外側からの力が加わると車輪が外れる(外れ易くなる)場合があります。小型軽量のため扱いが粗雑になるケースが見られます。各部の強度は大型機種より劣ります。)

● レールシステム 取付について

- ① ブラケットを足場パイプ42.7φ又は48.6φに同レベルに取り付ける。クランプ締付トルクは34N・m
- ② ブラケットクランプのナット4ヶ所を少し緩めレール挟み用金物（クランプ1個につき2個）とブラケットクランプ本体（三角の部材）のすき間をあけ、レールのフランジの挿入代を確保する。
レールフランジ挿入後はナットを締付ける。ナット締付トルクは18～20N・m
（出庫時はナットを手で締付けており、フランジ挿入代はない状態です。ナットを弛めすぎるとボルトが外れ、レール挟み金物共落下の恐れがあります。破損発生の恐れがあり万一落下後の再使用は禁止です。）
- ③ ストッパー付のレールはトロリーのアウターカバーが当たるレベルと一致する様取付向きを確認する。
（ストッパーはウェブの中央の高さでなく、予め偏芯して取付いています。ストッパーはフランジの下側部分が正しい位置です。上側となるとトロリーの安全なストップ機能が果せません。ストッパーを一旦外し再取付は不可です。）
- ④ ジョイントの締付は上下のボルト（上8、下8計16か所）全て忘れずに行う。ボルト締付トルクは18～20N・m
ジョイント部材のみボルトはキャップボルト（六角穴対辺8mm）で、工具にヘキサゴンソケットの装着が必要です。

注）ジョイントとブラケットが干渉する場合はジョイントを優先し、ブラケットはその左右に取り付ける。（別途タテ下地は確保して下さい。）

注）各部材の締付は電動インパクトレンチ等の動力付でなく手動工具にてお願い致します。（ボルトが切れネジ部がジョイントの中に残ることがあります。また切れたボルトの落下の恐れがあります。）またネジ山がつぶれ、部材固定できない場合があります。

- ※ 部材変形の例
ブラケットのレール挟み金物締付けボルトを、動力付工具で過大トルクで締付によるもの
- レールが保持できなくなる場合が御座います
おやめ下さい。



● レールシステム ライン長と各部材必要数量

下記の条件下での数量です。

- ・ブラケット取付ピッチは1.829m
- ・ブラケットとジョイントが干渉する場合はジョイントを優先し、ブラケットはその左右に取付
- ・トロリー可動範囲は両端ブラケット間で、ライン長より短くなります。（片持ち部使用不可）
- ・ライン長2.5mは、ブラケットをレール両端付近とその中間に取付ける条件としています。
- ・ライン長5mは、ブラケットをレール両端付近と1.829m以内毎に取付ける条件としています。
- ・ライン長7.5m以上は、下表値では両端部に片持ち（ミニトロリー使用及び、吊荷は禁止）部分が生じます。
これを解消する場合、別途両端付近にタテ下地を設け、ブラケット数量を下表より2個追加してください。

ライン長(m)	レール	ジョイント	ブラケット	ストッパー	トロリー
2.5	1	0	3		
5	2	1	4		
7.5	3	2	5		
10	4	3	6		
12.5	5	4	8		
15	6	5	10		
17.5	7	6	11		
20	8	7	14		
22.5	9	8	15		
25	10	9	16		
27.5	11	10	18		
30	12	11	19	2	1
32.5	13	12	21		
35	14	13	22		
37.5	15	14	23		
40	16	15	26		
42.5	17	16	27		
45	18	17	30		
47.5	19	18	31		
50	20	19	32		
52.5	21	20	34		
55	22	21	35		
57.5	23	22	36		
60	24	23	38		